

はばたき

厚木市立睦合中学校学校だより
令和2年12月17日発行
NO. 325

『睦中 Good Story ～友達のよいところを見つけよう～』

総括教諭

緊急事態宣言後、人と会うこともままならない期間を過ごし、そして今もなお様々な制約の中での生活を余儀なくされています。普段と変わりなく、何気ない日常がどんなに素晴らしいことなのか、人と人との繋がりがどんなにかけがえのないものなのかを切に感じています。

さて、コロナ禍で思うように活動できないもどかしさの中ではありますが、学校では生徒とともに今できるやり方を模索し、工夫しながら諸活動や行事を進めています。今年も本校では人権教育の一環である『睦中 Good Story～友達のよいところを見つけよう』の活動を10月から展開しています。その活動内容は、生徒が日常生活を送る中で見つけた「友だちのよいところ」を作文にまとめるというものです。忙しく過ぎていく日常の中で、ふと立ち止まって日々の学校生活を振り返ってみると、たとえ小さな出来事であっても自分にとっては大きな支えとなっていることに気付かされることもあると思います。

特に、仲間からの支えは大きな力となります。この取り組みを通して、気付いた気持ちや伝えたい気持ちを明確にできた生徒も少なくないのではないのでしょうか。中には「書いているうちに色々と思い出して、涙が出てきて、周りに気が付かれないようにするのに大変だった。」という声も聞こえてきました。学年別人権集会では、特に紹介したい作文を学年委員が読み上げ、思い出のスライドとともに皆で Good Story を分かち合い、とてもほっこりとした優しい空気に包まれていました。

残念ながら毎年行っている全校生徒による人権集会は、感染予防対策の関係で給食時の放送に替えての実施となりますが、各学年の Good Story を聞きながらの給食もまた楽しみです。

～ 紹介された Good Story ～

1年生

- 1組 ○○
「○○先輩」
- 1組 ○○
「すごい友達」
- 2組 ○○
「ずっと一緒に・・・」
- 3組 ○○
「クラスの筆頭・○○さん」
- 4組 ○○
「ありがとう」

2年生

- 1組 ○○
「大好きな場所」
- 2組 ○○
「本当にありがとう」
- 3組 ○○
「班長以上に班長してくれる班員」
- 3組 ○○
「大切な存在」
- 4組 ○○
「いつも僕を助けてくれる○○さん」

3年生

- 1組 ○○
「明るい心を持つ3年1組の皆さんへ」
- 1組 ○○
「大切な友達」
- 2組 ○○
「3年間の思い」
- 3組 ○○
「大切な右腕」
- 4組 ○○
「いつもありがとう」

思い出に残るむつみの祭

むつみの祭担当

開催が危ぶまれていたむつみの祭が無事に開催されました。合唱は学年ごとの発表会になりましたが、保護者の方々も多数見に来てくださって素晴らしいものになりました。例年に比べて、練習期間も時間も短かったのですが、当日の歌声は聞く人の心に響く美しい歌声でした。数日前に行われたリハーサルからの成長も著しくて、睦中生の力を感じました。

1年生は元気いっぱいの歌声で、聞いている人も元気になりました。2年生は、だいぶ声が大人になって、美しいハーモニーでした。3年生はこの仲間で歌える喜びが伝わってくる合唱で、さすが3年生と思いました。

委員を中心に準備を進めてきましたが、多くの方の協力があって無事に発表を終えることができました。ありがとうございました。

まだ展示の部は今学期いっぱい行います。なかなかの力作ぞろいです。他の人の作品を鑑賞しあって、お互いに学んでほしいと思います。保護者の方々も来校された際にはぜひご覧いただければと思います。

教科指導授業研修会

学習指導担当

今年度は、『「わかった、できた」の実感と活かす喜びを味わわせる授業づくりの工夫』といった研究テーマのもと、3クラス、3教科を対象に、11月に研修会を行いました。

2年生の保健体育科では跳び箱の授業を実践しました。研究協議では、着地をテーマとした実践の工夫や、男女共修になったことによる授業展開の難しさについて、議論を深めました。1年生は社会科と国語科の授業を実践しました。社会では、教科書や資料をもとに聖徳太子が目指した国造りについて考える授業、国語は、これまでに学習した本文の内容をもとに続きの話を創作し、それを読みあう授業を行いました。研究協議では、授業中の生徒の様子や、学習評価の方法について議論しました。今後も、よりよい授業に向けた研究に励みたいと思います。



「いつでも どこでも」を合言葉に

図書館教育担当

学校図書館には、読書センターと学習センターの、二つの役割があります。

本年度、図書館は密を避けるために、室内で読書や学習ができなくなってしまいました。そこで、「どこでも図書館」という名のもとに、お届けで借りられるブックデリバリーや図書館に来なくても返却できるポストを設置しています。

また、図書館前の廊下に照明を設置し、図書館に来なくてもわかるように本の紹介や本の展示をしました。さらに読書週間ではしおりやおみくじのプレゼントで、読書センターとしての活動の充実を図りました。図書館に来ないと何があるのかわからないということがなくなり、「いつでも、どこでも」たくさんの本を読んでもらえるようになりました。長期貸し出しでも、



たくさん本を借りて読んでもらっています。

学習センターとしても、コピー等を使ったサービスやレファレンスサービス（様々な質問に対する情報提供）、教室への書籍貸し出し等で本の活用をしています。図書館が、より一層身近な存在になることを願っています。

